

# NHO研究ネットワークグループの 活動とNHOブランディングへの貢献 —心脳大血管グループ(循環器サブグループ)10年の歩み—

和田啓道<sup>†1)</sup> 井口守丈<sup>1)2)</sup> 長谷川浩二<sup>1)</sup>第76回国立病院総合医学会  
2022年10月8日 於 熊本

IRYO Vol. 77 No. 5 (324-330) 2023

## 要旨

2009年に循環器グループとしての活動を開始し、2022年に脳卒中グループと合併され、心脳大血管グループとしての活動を開始した。過去約10年に循環器グループが発表した英語論文8報の内、心不全と冠動脈疾患を対象とした2つの研究の成果を紹介する。

心不全は再入院率が高く、入院医療費も高額な予後不良な疾患である。われわれは先行単施設研究の結果、循環血液中の可溶性血管内皮増殖因子受容体2 (VEGFR-2) の減少が心血管死亡・心不全再入院の予知因子である可能性を見出した。その知見を確認するため、循環器グループ21施設による多施設共同前向きコホート研究を実施した。その結果、各種リスク因子やバイオマーカーで調整しても、sVEGFR-2低値は心血管死・全死亡と有意に関連した。心不全マーカー、NT-proBNPが高値の心不全患者の中でも、とくにsVEGFR-2低値の患者は、心血管死・全死亡のリスクが高いことが明らかとなった。

慢性腎臓病 (CKD) は心血管病のハイリスク病態であるが、限りある医療資源を有効活用するためには真のハイリスク群のみを抽出して先制医療を行う必要がある。われわれは先行単施設研究の結果、CKD患者において血管内皮増殖因子可溶性受容体のひとつsFlt-1が優れた心血管イベント予知マーカーである可能性を見出した。その知見を確認するため、循環器グループ17施設による多施設共同前向きコホート研究を実施した。その結果、NT-proBNPと高感度トロポニンIが、CKDを有するハイリスク患者において尿中アルブミン・クレアチニン比を超える、最強の予後予測バイオマーカーであることが明らかとなった。

循環器グループは、緊密なネットワークを構築して日本を代表する臨床研究グループになりつつある。NHO脳卒中グループも合わせた心脳大血管グループとして、現在のネットワークを維持・発展させることは、わが国の医療エビデンス構築に貢献するとともに、魅力ある医療組織として、若手医師のリクルートにも寄与すると考える。

キーワード 心不全, 冠動脈疾患, バイオマーカー

国立病院機構京都医療センター 1) 展開医療研究部 2) 心臓リハビリテーション科 †医師  
著者連絡先: 長谷川浩二 国立病院機構京都医療センター 展開医療研究部長  
〒612-8555 京都府京都市伏見区深草向畑町1-1  
e-mail: koj@kuhp.kyoto-u.ac.jp

(2023年3月28日受付 2023年6月9日受理)

Activity of the NHO Research Network Group and Its Contribution to the Branding of NHO: The 10-Year History of Cardio-Cerebrovascular Group (Cardiology Subgroup)

Hiromichi Wada<sup>1)</sup>, Moritake Iguchi<sup>1)2)</sup> and Koji Hasegawa<sup>1)</sup>.

1) Division of Translational Research, 2) Department of Cardiac Rehabilitation, NHO Kyoto Medical Center

(Received Mar. 28, 2023, Accepted Jun. 9, 2023)

Key words: heart failure, coronary artery disease, biomarker